

目的 物質的に豊かになった近年は、食生活においてモビのようにして食バる、かう何を食バる、かに大きく変化し、過度な容姿を気にする心が異常と思われ、食行動をとり、結果としては肥満、あるいは瘦みなどに見られる様は食の貧困が一方では発生している。中学、高校での朝礼時の貧血の発症などは、真にその通りかあると考えられる。今回は、学校の保健室を訪ねた学生を対象に、アンケート調査を実施し、その理由と食行動の関係を明らかにすることを試みた。

方法 本学保健室を訪ねた学生を対象に、来訪した理由、健康状態、食行動の状態、生活状態等についてアンケートを実施した。期間は1985年4月～1986年3月までの1年間で、この間の来訪者は約1000人、回収率は98%であった。この結果をマークカードに転記した後、機械検索、集計した。

結果 ①本キャンパスの学生在籍数は約5400人(文系:家政系 1:1)、保健室来訪者は約1000人であるところから、約2割弱の学生が何らかの形で利用していることが明らかとなった。②来訪者の数については、総体数では6月、10月に多く認められたが、スクールカレンダーを考慮して、1日当りの来訪者を算出すると、7月7.4人、次いで6月6.3人であった。③来訪者の理由の多くは腹痛、頭痛、風邪、外傷などであったが、貧血で来訪する者も多く認められた。